

2023年度 海の星カトリック幼稚園 学校関係者評価

I. 学校関係者評価委員の評価

委員は5名（教会司祭 園児保護者 地域住民 教会信徒・園パート職員 司祭・非常勤講師）

各項目の評価とコメントの要約はこの順で掲載する。

委員には、行事（マリア祭、ふれあい参観、星まつり、運動会、クリスマス聖劇、クリスマス礼拝、おゆうぎ会）の参観、毎月「て・くむ」の購読、日常の保育の観察、2回の対面の学校関係者評価委員会のほか、教職員が学期毎に実施した自己評価を参考にして3月に評価をしていただいた。

【評価 A:十分に成果があった B:成果があった C:少し成果があった D:成果がなかった】

全体評価 子どもの創造的な思考を伸ばし、対話による協同的な遊びを深める。

- 【 A 】 教室での活動だけでなく行事も振り返って、すべて良かった。先生方の熱心な仕事を誉めたい。彼女らは子ども達に正しい教育を与えることによってその生活を助けるだけではなく、社会にも大きな貢献をしている。
- 【 A 】 「サークルタイム」によって、子ども達の聴く姿勢や考えを発信できる力を育むことができた。子どもが本性として持つ「成長したい、楽しく遊びたい」という気持ちを伸ばしていただけることに大きな希望を感じる。
- 【 A 】 この目標の実現のためには、先生方の温かい視点による環境づくり、問いかけ等が必要である。それが実行されている園であり、「世の光」としての子供たちを育成している。この働きに敬意を持ち、地域に住む者として嬉しく思う。
- 【 A 】 行事を正常に戻して取り組めたことに感謝している。教員のチームワークは最高ではないかと思う。大変なことも多々あるだろうが、安心して園で過ごせる環境造りにこれからも取り組んでいただきたい。
- 【 A 】 先生たちは、自分たちの役割をよく知っていて、その使命に責任を持って取り組んでいる。子どもたちもそれをよくわかり、先生に打ち解けている。家族の愛と先生たちの愛に応えて子どもたちは元気に成長し、先生たちに信頼している。積極的に挑戦し、能力を高め、責任を果たす自覚を持っている。

評価項目ごとの評価

① 自分の発想を実現しようと工夫する力を育てる。

- 【A】 年少児は友達や先生と一緒に遊ぶ楽しさを感じることで、また年中児はサークルタイムなどでチームワークの精神も育てられた。年長児は努力、忍耐、勤勉、また、自分の意見や考えをはっきり伝える力がついただけでなく、「おみせやさん」活動で自分たちより小さい友達が楽しめるように工夫をする思いやりの心が育っている。
- 【A】 遊びや行事の中で子どもたちの意見を出し合い、対話して、その意見を多く取り入れることができた。安心できる場が園にあり、くふうして考えたことや行動する力を育てることができた。
- 【A】 子どもたちの意欲的な言葉を引き出し、やりたいことを十分取り組める環境造りをしている点、また子どもたちが満足している点で、教育の成果が出ている。
- 【A】 「おみせやさんごっこ」はかなり有効的だった。創作意欲と達成感を味わえたことが素晴らしい。
- 【A】 教師はよく計画し、子どもたちが積極的に参加できるように、子どものレベルに合わせて調整した。

② 対話によって違いを受け入れあう。

- 【A】 小さい時から対話を教えるのは教育の大切な点である。またそれぞれのちがった能力を見つけてそれを伸ばすことも教育者の大事な仕事である。他人の意見を聴くことを教え、意見を発表し合う時間が多くなったのは良い訓練である。「おみせやさんごっこ」は想像力が発揮され、当日は自分の役目をよく果たした。お客様や保護者を招いたことで子どもの成長、園の良さをよく知らせることができた。
- 【A】 サークルタイムを通して、自分の意見を通すだけでなく、友達の意見を聴いてそれを肯定する姿勢ができた。
- 【A】 意見が違って「それいいね。」と言える関係は素晴らしい。自分に自信を持ち他者を受け入れる、人生の基本を学んでいると思う。
- 【B】 行事、イベントを通して、言葉のやりとりでお互いを理解し受け入れ、それによって表現力も豊かになってきた。さらにこれからの過程に期待する。
- 【A】 例えば「おみせやさん」などのグループ活動で、子どもたちは自分の知識やアイデアをのびのびと表現できるようになった。教師はほかの子の理解を助けるようにし、発展させた。

③ 保護者の気持ちに寄り添い、子どもの発言、遊びの工夫など成長をいきいきと伝える。

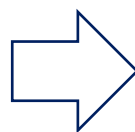
- 【A】 様々な方法で保護者に子どもたちの様子をよく伝えている。家での様子についても保護者から話してくれるようになったのは、良い信頼関係ができていることを示している。
- 【A】 子どもの不安そうな様子をありのままに伝え、保護者の意見や不安と一緒に考え共感しつつ、共に成長を喜んでいる点が素晴らしい。
- 【A】 面談やお迎えの時に、その日の出来事や良かったこと、課題も細かく伝えていただき、家庭で共有することができた。家庭では見えない子どもの姿を冷静な視点で見えていただいていることに感謝している。
- 【A】 普段から保護者との意思疎通ができているように思われる。お互いに遠慮なく情報交換できることは安心の現れだと思う。
- 【A】 定期的な情報交換と普段のコミュニケーションにより、教師は子どもの弱点にも早期に対処でき、成長を確認していくことができています。

2. 教師の自己評価

教員はそれぞれ、1・2学期と3学期末に各期の取り組み状況とその成果、次の学期（または学年）に繋げる点を自己評価として報告し、目標達成に向けて具体的な方法を話し合う園内研修を行った。年度当初はクラスの年齢によって差が大きかったが、3学期にはそれぞれに大きな成果、成長を確かめることができた。

1・2学期の自己評価(12月8日)

	年少 担任	年少 補助	年中 担任	年長 担任	年長 補助
評価項目 ①	C	B	A	A	B
評価項目 ②	C	C	B	B	B
評価項目 ③	B	B	B	B	B



3学期の自己評価(3月8日)

年少 担任	年少 補助	年中	年長 担任	年長 補助
A	A	A	A	A
A	B	A	B	A
B	A	A	B	A